

# 第6章 | 就労準備支援事業

## 1 事業概要

就労準備支援事業とは就労までに一定のステップアップが必要な方に対する事業であり、表17のとおり「日常生活自

立」「社会生活自立」「就労自立」という3つの自立に基づく支援から成り立っている。

表17) 支援の方向を定める3つの自立に関する支援

日常生活自立に関する支援	就労に先立ち、生活習慣の形成を促すための助言、指導などを行うもの。
社会生活自立に関する支援	基本的なコミュニケーション能力の形成など社会的能力の形成を促すための助言、指導などを行うもの。
就労自立に関する支援	一般的就労に向けた技法又は知識の習得などを促すための助言、指導などを行うもの。

ぶらっとホームにおける就労準備支援事業は、「様々な事情で離職期間が長くなった」、「不安定雇用を転々としてスキルや経験が整理できていない」、「仕事で嫌な思いや辛いことが重なり心身の調子を崩してしまった」など、「働きた

い」「役に立ちたい」「何かしたい」という気持ちはあっても一歩を踏み出せない人のきっかけを共に模索する支援と考え、「プログラム」と「体験」という2つの柱を掲げ取り組んでいる。

## 2 実施状況

ぶらっとホームでは、令和2年10月より就労準備支援事業を世田谷区から受託しており、令和4年度は職員を3名へと増員して体制の強化を図り、表18のとおり生活困窮者と生活保護受給者を対象として事業を実施した。

表18) 就労準備支援事業対象者数

	生活困窮	生活保護
世田谷	19	9
北沢	7	26
玉川	4	6
砧	9	4
烏山	2	11
計	41	56

### ① プログラム

相談者の多様な特性や状態に応じて、複数の自立の要素を含む様々なプログラムを組み合わせることによりオーダーメイドの支援を実施できるよう、表19・20・21のとおり実施

し、コロナ感染症の影響で実施を控えていたものが令和4年度は再開されたこともあり、「実施回数」と「延参加者」ともに増加している。

表19) 通常プログラム実績

	日常生活	社会生活	就 労	回 数	延参加者	
					困 窮	保 護
保健師による健康ワークショップ	◎		○	12	19	38
PC講座入門	○	○	◎	12	32	23
PC講座初級	○	○	◎	12	27	26
PC講座実践	○	○	◎	11	8	21
PC講座チラシ・動画編集			◎	4	0	15
お金について学ぼう	○	◎	○	9	15	33
ぶらっとカフェ ガリレオ	◎			46	13	75
カフェ豪徳寺	○	◎		21	6	79
コラージュ		◎	○	10	20	19
日々の小さなストレスマネジメント	○		◎	8	7	21
職場でムリしないコミュニケーション	○	○	◎	9	14	18
健康ウォーキング(ポールウォーキング)	◎	○		10	13	30
創作プログラム	◎	○	○	8	7	26
絵本セラピー @大人の絵本の時間	○	◎		3	8	9
しゃべりば	○	○	◎	8	9	25
その他単発				7	4	10
計				190	202	468

表20) 強化月間プログラム実績

	日常生活	社会生活	就 労	回 数	延参加者	
					困 窮	保 護
ライブコネクション～地域の支援を活用しながら自立する人生ゲーム～	○	◎	○	3	2	6
適性検査(クレペリン検査)			◎	5	6	11
はたらく前の自己発見ワーク			◎	2	4	7
見直して安心! ビジネスマナー			◎	2	4	4
自分に合った働き方を考えよう～働き方の色々～			◎	1	1	4
自分以外の他者を知ろう(高齢者疑似体験)			◎	1	1	2
いろいろな働き方を考えよう			◎	1	2	2
計				15	20	36

表21) ジョブトレーニングプログラム実績

	日常生活	社会生活	就 労	回 数	延参加者	
					困 窮	保 護
「はたらく」ってなに?・「はたらく」ってなに?(振り返り)			◎	2	-	10
日々の小さなストレス「トーク」			◎	1	-	3
自分に合った働き方って何?・自分に合った働き方って何?(振り返り)			◎	4	5	19
求職活動前の自己発見ワーク			◎	1	2	4
日々の小さなストレスマネジメント			◎	1	2	3
見直して安心! ビジネスマナー			◎	1	2	3
自分をもっと素敵に見せるパーソナルカラーと身だしなみ			◎	1	3	5
職場でムリしないコミュニケーション			◎	1	3	3
卒業生と話そう			◎	2	6	7
いろいろな働き方を考えよう			◎	1	3	4
「働く」こと「食べる」こと			◎	1	3	4
就労収入と将来設計			◎	3	-	8
計				19	29	73



プログラムの様子

プログラムの内容は、参加者との面談や定期的な振り返り、アンケートの実施などを通じて、適宜見直しを行っている。

表22のアンケート結果にみられるように、「外出のきっかけ／生活リズムを整えるため」や「興味関心がある」との回答が多くなっていることから、プログラム参加者の多くが外出の機会や人との関わりが限られている状況にあると考えられる。そのため、プログラムでは意図的に講師や地域住民と関わりを持つ機会を創出することで、参加者はリラックスした表情が見られるなど成果も感じられた。

また、「ジョブトレーニングプログラム」と「強化月間プログラム」については、就労自立に関する支援を強化する目的で年3



コラーージュ作品例

回実施している。その中で、2月には「卒業生と話そう」という就労準備支援事業を経て就職に至った先輩からの話を聞くプログラムを実施し、ともに学び、緩やかな関わりの中で、お互いを尊重し安心して自身の考えを話せる空間を作ることで、仲間意識や協力意識が芽生えた様子が見られ、グループ支援の有用性を確認できた。

表22) プログラム参加理由(アンケート結果より)

	回答数
外出のきっかけ／生活リズムを整えるため	44
今後の仕事やキャリアで必要そう	35
興味関心がある	44
自身が課題や苦手に感じている	13
その他	4

## 第6章 | 就労準備支援事業

(プログラム事例1) 自分の状態を確認するために活用し、自信とステップアップにつながった事例

【Wさん・50代男性】

支援のきっかけと課題	以前は専門職に就いていたが、うつ病を発症し離職して4年程ひきこもる。強化月間プログラムがきっかけとなり就労準備支援事業につながった。
経過・様子	参加初日は緊張から具合が悪くなり途中で退出したが、「再チャレンジしたい」と話し、1つのプログラムに参加できたら次を予約するという進め方で徐々に様々なプログラムへの参加ができるようになった。
第一段階	週2日2時間(1つのプログラムの時間の長さ)なら外出し、人との関わりの中で働くことができそうという自信が持てるようになり、自力で就職し就労決定した。
第二段階	フルタイムで働ける体力をつけるため、仕事をしながら午後のプログラムへの参加を希望したが、夏の暑さが辛く、午前中の仕事だけで体力を消耗してしまうことが分かった。
結果と終結(支援開始から約10か月)	現在の自分の体力に合わせて、週3日2時間で就労継続している。

(プログラム事例2) 本人が課題に向き合うきっかけになった事例

【Nさん・50代女性】

支援のきっかけと課題	集団の中で上手くやっていくことができず、人間関係が理由で数か月単位での離職を繰り返していた。継続して仕事をするために何が必要なのかを考えるきっかけにしたいと就労準備支援事業につながる。
経過・様子	主に自分を振り返るプログラム(ストレスマネジメント、職場でムリしないコミュニケーションなど)で、家族との関わり、葛藤が度々語られた。
第一段階	適性検査の結果から、「一生懸命になり過ぎていたら鎮めるように関わる」というようなアドバイスがあった。社会参加体験としてイベントの手伝いをする中で、「仕事はそつなくこなし助かったが、役割以上に業務を把握したがるなどの違和感があった」とのフィードバックを受けた。
第二段階	参加態度は真面目で明るく、適度に他の参加者と交流し、質問や発言もあり、積極的に関わっていた。しかし、しごと見学の日程を決めて間もなく突然連絡が取れなくなり、全ての予定が連絡なくキャンセルとなった。
結果と終結(支援開始から約3か月)	「3か月ほどで上手くやっていけなくなる」という本人の言葉通り、就労準備支援事業に繋がったのも3か月程という結果になったが、この間の参加時の様子や状況について、支援者間で共有できたことにより、就労継続にはまずはメンタル的な課題に向き合うことが必要という認識を本人も持つことができ、次のステップに進むことができた。

### ② 体験

これまでのキャリアから「仕事」に対するマイナス感情や一元的な思考に捉われている方も多い。ぷらっとホームでは百聞は一見に如かずと考え、業種や職業理解だけでなく、働き方や働く人を知る、また外出や社会参加の機会として、体験に力を入れている。

開拓には、世田谷区社会福祉協議会が培ってきた地域における社会資源・人とのつながりが大きく活かされている。

社会貢献や人手不足といった企業や団体の事情や思い、特に困りごとを丁寧に聞き取ることで企業や団体側に前向きに受け入れていただくことができた。体験は雇用ではないが、モチベーションを向上させて次のステップに踏み出す機会を提供するものであり、生活困窮者や生活保護受給者が対象となることや、報酬は目に見える成果として就労意欲を惹起させるものであることから、交通費程度の報酬の負担に協力いただくことも多くあり、感謝申し上げるところである。

表23) 体験実施実績

区 分	主な内容	開拓数	マッチング数	延参加者	
				生活困窮	生活保護
社会参加体験	中町天祖神社清掃活動	13	40	107	68
	商店街清掃活動				
	フードパントリー仕分け				
しごと見学	社会福祉施設	9	20	4	10
	企業・店舗				
しごと体験	社会福祉施設用務	11	11	52	67
	農業公園管理				
	企業・店舗清掃				
計		33	71	163	145

### ・社会参加体験

外出や社会参加の機会として、体を動かし、働く感覚を思い出し、社会や人との緩やかなつながりや交流のきっかけとして社会参加体験プログラムを実施している。参加の期間や頻度、目的は対象者によって異なり、緩やかな関わりで実施する。ボランティアを希望する人がいるのかどうか分からない中でのスタートとなったが、結果的に「ボランティアなら」

と多くの方が参加した。

毎週金曜日に実施している中町天祖神社での落ち葉清掃では、活動を見て地域の方から「ご苦勞様」「きれいにしてくれてありがとう」と声をかけられる。活動後に「初めて人にお礼を言われた」、「これって社会貢献ですよ」と話す参加者の姿に、誰かの役に立っているという自己有用感の重要性を再確認した。

#### <コメント>

令和4年6月より毎週金曜日、中町天祖神社で落ち葉清掃作業を行っている。これは、世田谷区社会福祉協議会上野毛地区事務局が身近な地域の課題を掘り起こし、就労準備支援事業につないでくれたことで始まった。日々、活動を気にかけていただき参加者と一緒に汗を流して下さるお2人よりコメントをいただいた。

#### (中町天祖神社総代責任役員)

当神社境内の清掃について、これまで定期的をお願いしておりました方が令和3年5月でおやめに生まれ、引き続き境内清掃をお願いできる方を探していたところ、区の社会福祉協議会から、就労準備支援事業の一環として対象者受け入れのご提案をいただき、境内清掃をお願いすることといたしました。

作業をお願いさせていただき、作業をなさっている状況を拝見してみると、皆さんが神社の静粛な環境にすっかり溶

け込み、境内の木々の呼吸にご自身たちの作業リズムが呼応するように、作業をして下さっております。

そばで作業ぶりを拝見しますと、すぐく生き生きと作業をなされ、社会での就労が全く問題無いように見受けられました。

私共も神社の境内がきれいに保たれることで非常にありがたいことですし、このようなことで、対象者の方々にとってもいい就労機会を持てるということでしたら、それこそお互いにwin-winのことだと感謝いたしております。

#### (世田谷区社会福祉協議会上野毛地区事務局)

社会福祉協議会上野毛地区事務局として月に一回、一緒に参加させていただいております。

当初は個々で作業されていた方々が、回を重ねるにつれ、仲間内でゴミ袋に枯れ葉を入れるのを手伝われたり、声を掛け合ったり、互いに協力しあう様子が見られています。

作業は皆様とても丁寧で、一生懸命な姿にこちらも励まされております。

上野毛地区事務局ではさつまいもなど農作物の苗植えから

栽培を地域の方々と一緒にを行う居場所づくり「さわやか農園」という事業を行っており、中町天祖神社清掃に参加されている方にもお声がけをするのですが、皆様「参加する」というよりも「お手伝い」というようなスタンスで来てくださってます。

地域の方が重いものを運んでいると一緒に持てるよう手伝われたり、重い作業を積極的に行われたりするなど、周りに配慮しながら動く姿があり、日頃の活動への姿勢が他のところでも活かしていることを実感しています。





・しごとと見学

働く場所に足を運び、実際に働く現場を見学する。仕事や職場、働いている人や働き方を知ることで、就労への意欲を促し、参加者自身が働く姿をイメージすることを目的に実施している。見学を経て、しごとと体験の希望が聞かれるなどステップアップになることも多い。

<インタビュー>

令和4年10月からJA東京中央が管理運営する世田谷区立喜多見農業公園でしごとと体験をスタートしたAさん。

しごとと体験後、令和5年2月から雇用契約を結び、現在JA

—まずは、Aさんに伺います。しごとと体験をすることになったキッカケを教えてください。

A:正直、農業に興味がある訳ではなかったんです。就労準備支援事業の開拓担当さんから施設の清掃と農業公園の2つを提案されて、体験の時間と回数でやれそう、やってみようと思いました。

—しごとと体験初日はどうでしたか。

A:初日は除草を教わって作業しました。仕事をするのは久々で、丸々18年のブランクがありました。家に帰ったらぐったり、でも頭は覚醒している。そんな状態からのスタートでした。生島さんはマンツーマンで丁寧に教えてくれました。うまく出来ない、でも「厳しくチェックしないよ」と言われて、安心できました。気持ちが変わってきたのは、子どもたちと触れ合う経験をしてから。この農業公園は近所の幼稚園や保育園の子どもたちが年間通して通ってくる。サツマイモの収穫では、目配りして子どもたちが困っていたら、一緒に抜いてあげたり、土をやわらかくしてあげたり。「できれば子どもと関わる仕事が出来たら」と思うこともあり、体験が終わってもここで仕事したいと思うようになりました。

—地域の人が関わる農業公園ならではのですね。

A:作業がきつくても頑張れるという気持ちもあり、なまった体を鍛える、筋トレという視点を変えたことも良かったと思う。今も腰にくる時もあるけど、集中して作業できているよ。

—しごとと体験を経てご自身のことで新たに発見したことはありますか。

A:人と比べられるものではないけど、「まじめにコツコツやれる」と気が付いた。これまでと変わらず、言われたことをしっかりやっていく、また指示がなくてもできることはやっていこうと思っています。自分に与えられた仕事をこなし、その上で知識を覚えていけたらいいと思う。力まずやっていきたいです。

—今後就労準備支援事業やしごとと体験に取り組む方へアドバイスがあれば教えてください。

A:視点を変えることが重要だと思う。「きつい仕事で嫌だな」と思うと続けるのは難しい。今「自分は筋トレをしている、体を鍛えているんだ」と思えたら気持ちも変わる。気になったことやひっかかったフレーズを文字に残しておくとな力になる。例えば、「先入観が可能を不可能にする」という言葉は時々見返して、気持ちのリセットになっています。また、人に頼ることも大事だと思いました。開拓担当さんにはとてもお世話になりました。「頼る」ということが大事だと思う。就労準備支援事業に頼っていなければ、今の状況には多分なっ

・しごとと体験

企業・団体へ出向き、仕事を体験する。体験内容は受け入れ先と参加者のニーズに合わせて体験期間や頻度、内容を明確化した上で、実施している。また、定期的に「目標・振り返りシート」を作成することで、計画的に体験を進めている。

東京中央の職員として活躍されています。就労準備支援事業を通じて感じたこと、また受け入れ側のJA東京中央農住支援部営農支援課課長 加藤さん、現場で指導・支援して下さった生島さんにお話を伺いました。

ていなかったと思う。働かないままズルズルとなってしまうたかもしれません。

—就労準備支援事業も頼れるよと言えますでしょうか。

A:いいんじゃない(笑)それから、自分から心を開くこと。オープンに支援者に自分のことを話したことでここまでつながったと思う。自分から心を開き、いろいろな人に頼ることが大事な。

—さて、今度は受け入れて頂いた加藤さん・生島さんに伺います。

加藤:もともと農業公園は慢性的に人が足りていないという事情がありました。しごとと体験のお話を伺い、体験してもらうことで、ゆくゆくは戦力になってもらえるならありがたいと思い、受け入れました。実際、体験していただき、非常に頑張っていたで、熱心に行っている姿を見て戦力としてお迎えしたいと思いました。ただ、我々は農業のことはプロですが、福祉のことは経験も知識もなく、どのように対応していけばよいかわからない部分も多く、それは心配事としてあります。農協全体として、また農福連携といった流れの中で、障害者や様々な事情のある方、若者、ぷらっとホームからつながる方など、様々な人や働き方の受け入れの初めの一歩を踏み出したところです。総合的に相談にのってくれる窓口が必要だと感じています。どこに相談したらよいか分からないことが一番の懸念ですかね。

生島:Aさんは、僕の気が付かないところも気が付いて作業してくれる。フォローしてもらう部分もありとても助かっていて、一緒に働いていきたいという気持ちが強くありました。Aさんに限らず、色々なご苦労をされてきている方を受け入れつつあります。「これでよかったのかな?」、「うまくいかなかったらどうしよう?」と対応に不安を感じることもある。そういう時の相談窓口があるとありがたい。これは、僕にもAさんにも、他の人のためにもあるといいなと思います。

加藤:雇用がゴールや目的ではなく、ここからが始まりで、うまく運営していくことが目的なので、はじめの一歩を踏み出したところだと捉えています。

—「しごとと体験」と「雇用」では受け入れにあたって違いはありましたか。

生島:やっぱり体験というのは雇用とは違いますね。対応も違うし、Aさんに対しての思いや期待も変わるかな。Aさんから「生島さんとの縁」と言ってもらえることがあり、ありがたいなと思っています。協力し合い補い合う事が出来ていると感じています。福祉の講習も受けたり、専門家とも話をしながら自分自身でも

経験を積んでいきたい。相互に成長できたらいいなと思っています。

—福祉領域の勉強やご自身の成長のきっかけにもなっているのですね。

生島:Aさんの今後の展望を考えるなど、自身の責任も生まれました。今は、たくさんの人が関わって雇用に至った。ここがスタート地点なので、僕自身の対応も振り返りながらこのケースも含めほかに広げるにはどうするか考えていく必要があるなと思います。

—しごと体験中は月1回フィードバックを行っていましたが、不安に十分に寄り添うものではなかったかもしれません。これは就労準備支援事業の今後の課題にします、ありがとうございます。

生島:決してネガティブな不安ではありませんでしたよ、前向きにやっていくための悩みです。Aさんとはお互いに分かり合える関係になったことで、安心できました。すべてを話さなくても、自分のペースで判断してくれる。今、他の団体から新たに体験者を受け入れています。僕のざっくりとした指示を、Aさんがフォローしてくれます。Aさんは、次の人を受け入れる側にまわりサポート役になっているし、そうやって欲しいと思っています。

—就労準備支援事業ではしごと見学や体験先を引き続き開拓していきます。後押しするようなメッセージをいただけたら幸いです

加藤:気楽な気持ちでいいと思います。初めての取り組みだったので、Aさんにとっても我々にとっても経験になりました。雇用に結びつかどうかではなく、色々な人が現場に来て、お互い経験していくことがwin-winの関係になれる近道かなと考えています。不安がることは必要ないと思います。しごと体験に限

らず「人事は、出会い」と言いますよね。良いご縁があった。

そしてこの良いご縁を続けるには互いに色々経験を積まないといけないということなのかな。

—これからもしごと見学・体験を希望する方はたくさんおられますので、その際はご協力のほどお願い致します！

加藤:それはそれは(笑)関係機関との調整は必要ですが、お話がありましたらまたぜひ。

—みなさん、ありがとうございます。



(しごと体験事例) 就労準備支援事業を利用し、フリーランス業務委託契約を結んだ事例  
【Kさん・50代男性】

支援のきっかけ(令和2年～3年)	持病の悪化と、コロナ感染症の影響による就労収入の減少が重なり困窮した。フリーランスでクライアントが主に旅行業界だったことや、会食など人とのつながりから仕事を得ていた経緯もあり、就労機会を喪失した。
就労準備支援事業とのつながり(令和3年年11月)	持病のため身体を動かすことや外出への不安があり、在宅でデータ入力の仕事を始めましたが、仕事がかたどらず、以前のようにできないと自信を喪失し、在宅就労を続けることへの不安もあり就労準備支援事業につながる。
しごと体験と支援内容	地域密着型不動産業者の物件情報を住宅情報サイトに掲載業務を行う「しごと体験」をマッチングした。体験内容は、3日間会社でのOJTを行い、OJT後は在宅で入稿作業を行い、納期管理や担当者とのやり取りなども含めて在宅就労に向けた体験を行う。
支援の経過(令和4年8月)	外出不安はあったものの、3日間休まずOJTに参加した。その後の3ヶ月間のしごと体験も希望した。
(体験1ヶ月目)	十分なスキルを持っているが、業務の進捗報告やメール返信の時間帯などコミュニケーションやビジネスマナーで不十分な点を振り返りの中で共有した。
(体験2ヶ月目)	受入先担当者とのコミュニケーションの向上がみられる。
(体験3ヶ月目)	実践的な内容に近づけ続けた。振り返りで受入先担当者から不動産業界の仕事について話を聞き、興味を持つ。
しごと体験後(令和4年11月)	受入先に自ら業務を続けたいと伝え、フリーランス業務委託契約に至った。

### 3 今後に向けて

ぶらっとホームの相談者は、経済的な理由などにより早期の就労を希望する方が多いが、すぐに就職活動を始めるには、課題がある方も少なくない。

そういった方も含めた支援として、就労準備支援事業を行っているが、どのように支援を行っていくか、まだまだ手探りの状況であり、これまでの事例や参加者の声を参考に

随時プログラムを見直していくとともに、まだまだ参加人数が少ないしごと体験については、今後に向けて多種多様な体験先を開拓することが必要と考えている。

合わせて、就労支援事業とのつながりを意識し、就労へ向けて切れ目なくステップアップできるよう、一体的に取り組んでいく。